

「北信ゆりの木会」8年振りに開催

北信ゆりの木会 会長 北原 富裕(園S56)

本学部北信地域の同窓会「北信ゆりの木会」の総会を本年1月30日に長野市内のホテルで開催しました。

8年ぶりの開催であったため、何名が出席いただけるのか大変心配しましたが、前回出席者への通知や「ゆりのき通信」での告知のほか、役員等による職場関係や同年生へ声掛けなどにより、当日は昭和37年卒の先輩から令和2年卒の若手まで幅広い年代の27名が参加していただきました。また、ご来賓として農学部同窓会会長の辻井弘忠様にご臨席をいただきました。

全員での記念写真の撮影の後、総会となりました。

主催者あいさつとして、私から、能登半島地震被害へのお見舞いを述べたのち、平成28年2月以来8年振りとなった経過とお詫びと、今後は毎年開催としたいとの決意表明をしました。また、若い方や県職やJA関係者以外の幅広い同



窓生が世代や職場を越えて集まれるよう検討すること、来年は農学部創立80周年に当たることから、次の同窓会では記念となる企画を

考えたいと提案をしたところです。

続いて、辻井同窓会会長様から来賓祝辞をいただきました。辻井会長からは、

農学部の最近の動向とともに、来年の農学部創立80周年に向けて、学部や同窓会で様々な企画を検討中であるとお話がありました。その中で、記念イベントとして5月に「地域と連携する農学部」と題してシンポジウムを開催するとのご案内もありました。

その後、役員改選が行われ、副会長と幹事の若返りを図ることが提案どおり承認されました。

総会に引き続き、顧問の平澤幸雄様(林S37)の乾杯により懇親会となりました。席での暫しの歓談の後、卒業年次の若い方から順次に出席者全員による自己紹介となりました。職場や農業・自営で頑張っている近況や、辻井先生を始めとして学部時代の担当教官との思い出、中原寮でのエピソードなど楽しい話題がたくさん紹介されました。

自己紹介の後には、旧交を温める方、年代を越えて研究室での思い出に花を咲かせる方など時間を忘れて楽しいひと時を過ごしたのち、来年の同窓会での再会を約束してお開きとなりました。

来年の「北信ゆりの木会」には、多数の同窓生が参加いただけますよう期待いたします。



農学部同窓会松本支部総会報告

松本ゆりの木会 会長 塩原 資史(園S54)

農学部同窓会松本支部は諸先輩のご尽力で活動しておりますが、平成22年に規約を定め、松本ゆりの木会として正式に発足しました。本年度で15年目を迎え、会員は440名を超えるまでになりました。

コロナ禍で5年ぶりとなる本年6月20日に、来賓に辻井会長をお迎えし、20代から90代までの老若男女23名の出席を得て、総会を開催しました。



辻井会長からは、農学部創立80周年記念事業、同窓会の財政状況、会報郵送の廃止等についてお話がありました。支部として

も開催通知を郵送で行っており、経費節減に向けメールを活用したらどうかとの意見が出され、今後メールアドレスの登録を進めていく方向となりました。



また、同窓生による講演会を初めて開催しました。講師を長野県林業総合センター育林部長小山泰弘さんをお願いし、「長野県中部におけるニホンジカの動態」と題してお話いただきました。長野県の獣害は、昔はカモシカ、今はニホンジカ、増え始めているのがツキノワグマとのことです。ニホンジカの生息数は有害鳥獣駆除によって減少しておりますが、植生が豊かな(エサが多い)ところでは横ばい傾向だそうです。

懇親会では個々の近況報告や思い出等を語っていただくとともに、それぞれ交流を深めてもらいました。年1回の開催ですが、より多くの皆様の出席が望まれるところです。

東京ゆりの木会総会が2024年6月15日に開催されました。
詳しくは、同窓会東京支部「東京ゆりの木会」のウェブサイトをご覧ください。

原稿募集

同期会・支部活動の記事、
身近な出来事等、投稿を
お待ちしております。

信州大学農学部創立 80 周年記念イベント シンポジウム「地域と連携する農学部」の開催報告

イベント企画担当 北原 正義(工S45)

信州大学農学部は 1945 年（昭和 20 年）長野県立農林専門学校として設立され、以来 80 年の時を刻み 2025 年（令和 7 年）に 80 周年を迎える。これを記念して信州大学農学部同窓会はイベント「地域と連携する農学部」を開催することで、農学部が如何に地域に貢献し地域から愛されてきたかを地域に向かってアピールしようと企画した。

発端 ①昨年（2023 年 4 月）の同窓会決算書の監査で私（監査人）から「記念事業では農学部に金銭的な支援をするだけでなく、同窓会が主体となって応援する事業を展開したらどうか」と指摘させていただいた。
②私ども同級生が伊那で喜寿の同級会を開催したいと言っているのです、その事業に相乗りさせていただきたい。以上の事由で同窓会主催の事業を企画するよう同窓会長から指示されることになった。

経過 2023 年 5 月から企画書づくりを開始し事務局段階で熟度をあげてきた。企画担当者（私）と事務局で企画書作りに没頭できたのは、同窓会長が「金は出すが口は出さない」という主義のお陰であった。出演者から演題に至るまで全てを一任された。手作りを旨とし 80 周年の歩み（パネル）は正月に家に持ち込み家内とともに模造紙の貼り付けや写真の添付など夜を徹して行った。信州大学を目指す高校生に聞いていただきたいという一心から伊那市内の高校に教頭先生を訪ね生徒の参加を要請した。参加申し込みの期限が近づき 60 名余という数字に事務局のお二人は会場から考えて上出来、参加高校生の

学校名は不要と主張、予備の席 40 席まで用意したことから 100 名近くでないと不満、学校名は入れるべきと私。親娘喧嘩に近いにらみ合いが続いた。



当日 直前の電話攻勢の効果があり 90 名近くの参加者となり熱気に包まれた会場になった。研究発表は地域に密着した親しみやすいテーマであり、かつまたプロジェクターを駆使したわかりやすい説明で好評を博した。コーディネーターの取り纏めはマトを得たものであり後の全体討論へ誘導するような締めくりであった。全体討論（質疑応答）では 6 名から提案があり、それぞれに講師から回答するなど時間制約が無ければまだ続くような状況を呈した。

5 月 18 日（土曜）13：30～16：00 開催

総括 「地域と連携する農学部」は地域へのアピールと言う点では申し分ないが、全国津々浦々から参加された同級生からは、もう少しグローバルで純学問追求型のイベントで欲しかったと指摘された。来年の本イベントで参考にされたい。



喜寿に感謝の同窓会

城戸 莞爾(工S45)

昭和 45 年（1970 年）に卒業して約 54 年。山あり谷ありの人生行路を乗り越え、無事喜寿を迎えることが出来た友があつまりました。

5 月 18 日（土）新築の伊那市西箕輪「inadani sees」で、「信州大学創立 80 周年記念イベント」が開催されました。参加者は農学部同窓生・教員・地域の方々 90 名。その内 16 名が喜寿の仲間達です。4 名の先生から研究成果が発表されました。参加者の中からこれを機会に伊那谷の自然資源を生かして、校内の景観を高めて行こうとの意見も出ました。先生方皆さん有難うございました。

久しぶりの仲間との懐かしい一献。一番元気だった病氣中の友に皆で励ましの寄書、そして各々の現状の紹介（みんな長めの一言）、懐かしい「春寂寥」の寮歌を歌いました。

翌日は諏訪湖と遠州灘を結ぶ天竜川支川三峰川の美和ダム（60 年経過）を見学、城跡と桜の共存、歴史博物館・高遠散策後高遠蕎麦で昼食、皆は満悦至極。

来年 2025 年は学部創立 80 周年、次の目標は米寿、その為には自信を持って前向きに日々暮らすのが何よりの良薬です。大変な時こそ、顔を大空のすっきりと晴れたお日様に向け、笑顔で【顔晴る】“がんばる”という、自分の生き方を前向きに考え実行している仲間達は、頭も体もまだ大丈夫「顔晴るろう」。



高遠散策 城址公園

手良沢山演習林管理棟の改修

小林 元 (林H3)

前報でもお伝えしました、手良沢山演習林管理棟の改修が昨年暮れに無事竣工いたしました。実習時の講義棟も兼ねていた同管理棟は国有林時代の建築物で、昭和44年に手良沢山演習林が国有林から移管された際に引き継がれた建物でした。改修は地表面がむき出していた床下のセメント打ちから始まり、腐朽が進行していた木製の基礎も新たにコンクリートで組み直されました。外壁には断熱材がふんだんに盛り込まれ、空調設備も完備されました。これまで男女の区別なく2器しかなかった浅堀の汲み取り便所は、男女別々のウォシュレット付きの水洗トイレに変わり、新たに多目的トイレ

も加わりました。建物の入り口にはスロープが設置されており、どなたでもバリアフリーに利用できるよう整備されました。コミュニティースペースとして設計されたフローリングの居間には薪ストーブが置かれ、来訪者が気楽にくつろげるよう開放しております。また、研究目的を想定した外部利用者には宿泊もできるよう、デスクとベッドを備えた個室を2部屋用意しました。実験室もリノリウムの床に張り直し、実験台や薬品庫も新調しました。まるで本学キャンパスに居るかに感じるこの快適な管理棟に、4月から森林・環境共生学コースの学生40余名を迎え入れ、実習を行っております。



ゆりのき資料館の現状報告

農学部同窓会長 辻井 弘忠 (畜S43)

農学部創立60周年記念事業で建造されたゆりのき資料館には、展示室・収蔵室、同窓会事務室、研修室及びサロンが



整備、数年後には農産物直売所が移設され、創立70年に講義棟耐震工事に伴う増築が行われた際にはさらに講義室、研修室やラウンジが増設、また講義棟工事

後に再改修されIT環境ならびに宿泊施設、ミーティングルームが整備されました。これらの施設は講義室・研修室として活用され、講義棟耐震工事の際の講義室、学部・大学院入試等に使用され、宿泊施設も短期滞在の研究者、集中講義・学会など来学の先生・卒業生などに活用されています。資料館も地元の小学生が訪れて動物のはく製などを見て歓喜の声を上げております。

この春、留学生確保のために短期宿泊場所の整備を行うこととなり、ゆりのき資料館の一部のラウンジやミーティングルームを改造して短期の外国からの留学生の宿泊室を増設、自炊ができるようになり、5月末現在までに既に4名が利用しております。

旧同窓会館跡地について

渡邊 修 (生H5)

伊那市荒井にある旧同窓会館の建物は老朽化が著しいため、令和5年10月に撤去され、更地となりました。敷地は閑静な住宅地に位置し、日当たりも良好で南と東の両方が公道に面した角地であることに加え、快適な生活を送るのに最適な環境となっています。理想の家を自由に設計・建築することが可能で、上下水道も既に引き込まれているため、すぐ

に建設を開始でき、人気の伊那小学校区、という内容で小松商会を通じて不動産情報を公開しています。場所は伊那市荒井、地籍：665.36m² (201.3坪)、地目：宅地、建ぺい率：60%、売却予定価格：1400万円となっています。この機会に財団の基本財産として有効活用を図りたいと思います。荒井の旧同窓会館について、問い合わせ等がありましたら、農学部同窓会事務局へご連絡ください。



4年ぶりの落葉松祭 信州大学農学部同窓会の皆様

令和5年度第67回落葉松祭実行委員会

この度は令和5年度第67回信州大学農学部落葉松祭へのご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。皆様のお力添えによりこの度の第67回落葉松祭は盛況を博することができ、心より御礼申し上げます。



私共第67回落葉松祭実行委員といたしましては久方ぶりとなる通常規模での落葉松祭の開催であったこと

ともあり、試行錯誤を重ねた結果落葉松祭を開催することが出来た次第です。その過程では、農学部同窓会会長である辻井弘忠様をはじめ多くの方々からお力添えをいただきました。あの時お力添えをいただいていたければ、落葉松祭は盛況のうちに終わることはなかったと思う次第であります。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、信州大学農学部同窓会の皆様におかれましては是非とも今後開催される落葉松祭に足をお運びいただき、農学部生の趣向を凝らした催しを体験していただくとともに信州大学農学部キャンパスの自然が織りなす風景をお楽しみいただき、ともに落葉松祭を盛り上げていただければ幸いに存じます。

重ね重ねではありますが、この度皆様から賜ったご支援、ご協力につきまして略儀ながら書中をもって御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

信州大学農学部同窓会 令和5年度 収支決算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)(単位:円)

収入総額	6,515,533
支出総額	6,156,821
繰越額	358,712

収入の部

前年度より繰越	591,110
同窓会費	3,024,000
年会費	1,866,000
法定福利費	5,426
雑収入	528,997
特別会計より繰入	500,000
合計(A)	6,515,533

支出の部

会報発行費	1,862,554
農学部支援費	159,922
支部支援費	200,000
信大同窓会連合会	70,000
財団支援費	2,000,000
人件費	1,123,960
旅費交通費	77,600
会議費	21,835
総会費	176,036
交際費	56,705
通信費	48,429
消耗品費	68,083
水道光熱費	25,056
振込手数料	115,210
雑費	35,228
法定福利費	16,203
予備費	100,000
合計(B)	6,156,821
繰越収支差額(A)－(B)	358,712

特別会計

収入の部	
前年度から繰越	6,258,632
預金利息	98
合計(C)	6,258,730
支出の部	500,000
支出の部	365,200
合計(D)	865,200
繰越収支差額(C)－(D)	5,393,530

公益財団法人信州農林科学振興会 令和5年度 収支報告

(令和5年6月1日～令和6年5月31日)(単位:円)

I 一般正味財産増減の部

1 経常増減の部

(1) 経常収益

①基本財産運用益計	839
基本財産受取利息	839
②受取寄附金計	3,540,500
受取寄附金	3,340,500
受取寄附金振替額	200,000
③雑収益計	1,453,946
受取利息	66
引当金戻入	850,000
定期預金取崩	568,880
その他	35,000
経常収益計	4,995,285

(2) 経常費用

①事業費計	2,652,286
研究助成費	600,000
教育助成費	1,200,000
国際交流助成費	120,000
その他助成費	0
その他事業費	5,264
会議費	9,100
消耗品費	22,660
給与手当	640,000
法定福利費	12,256
雑費	43,006
②管理費計	756,058
会議費	36,705
旅費交通費	62,000
通信運搬費	108,141
消耗品費	50,680
賃借料	23,740
諸謝金	44,000
給与手当	328,805
法定福利費	6,128
雑費	95,859
経常費用計	3,408,344

2 経常外増減の部

(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	1,453,880
①固定資産除去損	1,453,880
当期一般正味財産増減額	133,061
一般正味財産期首残高	1,248,960
一般正味財産期末残高	1,382,021

II 指定正味財産増減の部

①一般正味財産への振替	-803,880
当期指定正味財産増減額	-803,880
指定正味財産期首残高	64,913,075
指定正味財産期末残高	64,109,195
III 正味財産期末残高	65,491,216

公益財団法人信州農林科学振興会 令和6年度 事業計画

1. 研究助成

(1) 信州農林科学振興会賞

- ・野村 亘 信州大学学術研究院(農学系) 助教
「酵母の発酵経路酵素Pdc1の欠損株が示す新規表現型の解析」 20万円

(2) 信州農林科学振興会賞

- ・椎葉 湧一郎 信州大学農学部付属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 助手
「そば殻の敷料副資材利用における資源循環型畜産システムの確立」 20万円

(3) 信州農林科学振興会賞

- ・徳武 優佳子 信州大学農学部 助教
「カプサイシン給与が肉用鶏の筋成長に及ぼす効果の解明」 20万円

2. 教育助成

I 給付奨学金

(1) 伊那中央ロータリークラブ教育助成金

- ・XU WENJUN 信州大学大学院 総合理工学研究科 総合理工学専攻 博士2年 42万円
- ・MD. Badiul Alam 信州大学大学院 総合理工学研究科 農学専攻 修士1年 42万円

(2) 駒ヶ根ロータリークラブ教育助成金

- ・Ameo Shusmita Jahan 信州大学大学院 総合理工学研究科 農学専攻 修士1年 36万円

II 渡航費助成金(給付)

20万円

3. 国際交流助成

- ・信州大学農学部留学生支援の会 会長 米倉 真一(学部長)
日本文化研修事業の実施、及び留学生保険補助の実施 12万円

4. 特別講演会

令和5年度の研究助成金受給者による研究報告講演会
(令和6年11月頃)

(1) 信州農林科学振興会賞

- ・叶 戎玲 信州大学農学部 助教
「マルチスペクトルカメラ搭載ドローンを用いたダイズ病虫害検出の検討」

(2) 信州農林科学振興会賞

- ・鄭 屹峰 信州大学バイオメディカル研究所食品化学研究室 助教(特定雇用)
「フェネチルアミンの継続摂取が高脂肪食誘発脂肪肝臓マウスの認知機能及び肝臓糖代謝に及ぼす影響」

(3) 信州農林科学振興会賞

- ・遠藤 勝紀 信州大学大学院 総合理工学研究科 総合理工学専攻 食品免疫機能学研究室
「ガレート型プロシアニンによる自己免疫疾患改善効果の検証」

5. 教育研究等助成金贈呈式

令和6年6月28日

退職のご挨拶

20年前の2月29日、私は企業人でした。そして、翌日の3月1日から信州大学に縁を得て大学人になります。私にとって大きな選択でしたが、今の幸せがあるのはそのときの選択のおかげです。そして何より同僚の皆さんや、私と研究を共にしてくれた教え子みんなのおかげです。本当に感謝しています。

先年、40年ぶりに私自身の学生時代の同窓会に参加しました。学生時代、青かった奴らがいい味を出していてみんないい歳をとっているなとうれしくなりました。その味と言えば、だしに二番だしがあるのを知っていますか？一番だしは、昆布と鰹節を煮て旨味を引き出したものですが、二番だしはその一番だしにさらに具材を加えて弱火でコトコト煮て、ゆっくりと強い旨味とコクを引き出したものです。和食はこのだしで決まると言いますが、特に煮物は二番だしが命だそうです。一番だしだけではだめなのです。先ほど同窓生はいい歳をとっているなど言いましたが、だしの話、人生にも通じると思いませんか？大学で学んで身についたものが一番だしなら、その後、社会に揉まれて色々な喜怒哀楽、紆余曲折を繰り返して

信州大学農学部名誉教授 池田 正人

た後にしみ出る人それぞれの味が二番だし。人生を一生懸命に生きていく中で、コクと風味の二番だしが出て来るのだと思います。

同窓生の皆さんは今それぞれの道を歩んでいようと、同じ一番だしをまとった仲間です。まずはそのことを忘れないでください。同窓生というのはものすごい力になります。そして次は二番だし。その具材は人生で言えば、順風満帆ではなく逆境です。必ずどこかで来る苦労はいい二番だしをとるためと思って立ち向かってください。色々なところに住み色々な人と話をしてください。それを経て、味のある、面白い人になってほしいと思います。まさに、人生の二番だしを醸す人になってください。



茅原紘先生を偲んで “笑う門には福来たる”

信州大学農学部名誉教授 千 菊夫



発芽玄米の研究者、カエルの先生、画伯、ヨッホッホッの挨拶ー茅原先生（農S40）を語るキーワードは多々あるが、私は「笑門来福」を買かれた先生を語りたい。

先生と私の交流は、私が農芸化学科助手に着任した折の学科歓迎会に遡る。会場は伊那まちのA旅館。女将さんに「よろしかったら御宴会の前にお風呂をどうぞ」と勧められて、先生に誘われ二人でお湯に浸った。裸の付き合いの始まりである。先生は私より十八歳年上であるが、どちらも宴会好きで波長が合ったせいか、夜の街をご一緒する機会が多かった。先生は人を笑わせることが大好きだったので、同行者のリフレッシュ度はいつも大きかった。また、先生はサービス精神旺盛で、腰をツイストしながら「赤いランプの終列車」などの懐メロを熱唱して場を盛り上げ、自らも心底楽しんでおられたので、皆が幸せな気分になった。

農学部キャンパスでも、忘れ得ぬ思い出がある。私はしばしば先生からネタを仕込んだ声がけをされたり悪戯を仕掛けられたりした。例えば、先生が身長の高い私に「どや、上の空気は薄いかな？」と声がけ。それに対して「はい、薄いので息苦しいです」と答えると、先生は「よしよし」と満面の笑み。また、先生が歩いて来られる方へ廊下を進んで行くと忽然と先生の姿が消え、さらに私が歩みを進めると物陰から大声で「わっ！」と不意打ち。このお茶目な悪戯は何度も仕掛けられていたので多くの場合は心の準備ができたが時には完全に不意を突かれたことも。「わっ！」の脅かし声の後には決まって「どや、びっくりしたか？」の質問が続き、私が「心臓が止まりそうでした」と答えると、先生の満足げな「よしよし」が続いた。どれも愉快的な思い出だ。

この寄稿文と共に掲載されている写真は茅原先生の「遺影」であるが、Vサインもまたお茶目である。鬼籍に入られても、現世と変わらず多くの人々を笑わせ幸せにしておられるに違いない。謹んで哀悼の意を表し、合掌。

人 事

○令和6年3月31日
【退職】荻田 佑 助教

○令和6年4月1日

【採用】池田 敬 助教

(テニシア・トラック)

野村 亘 助教

(テニシア・トラック)

BAGOUDOU ABDEL FAWAZ 助教

(特定雇用)

○令和6年4月1日

【昇進】上原 三知 教授
竹田 謙一 教授
三谷 聖一 准教授

○令和6年4月1日

【名誉教授称号授与】池田 正人 元教授
植木 達人 元教授
千 菊夫 元教授
萩原 素之 元教授

○令和7年3月31日

【定年退職予定】春日 重光 教授
藤田 智之 教授

叙 勲

○令和5年7月11日 有馬 博 元教授
叙位(従四位) 叙勲(瑞中)

○令和5年9月22日 黒澤 辰一 元教授
叙位(正四位) 叙勲(瑞中)

計 報

○令和6年4月25日 茅原 紘
元教授、元同窓会長、同窓会連合会会長

○令和5年5月28日 池田宗兵衛(専農S26)
(公財)農林科学振興会初代会長

農学部80周年記念式典・イベントの開催について

信州大学農学部及び同窓会の連携に関する合同推進委員会
委員長 松島 憲一(園H3)
監事 内川 義行(生H4)

来年度(令和7年度)に信州大学農学部は創立80周年を迎えます。これに向けて80周年記念式典実施のための日程や内容について信州大学農学部、信州大学農学部同窓会、および、卒業生と教員とで構成される「信州大学農学部及び信州大学農学部同窓会の連携に関する合同推進委員会」で検討を重ねてまいりました結果、令和7年10月12日の日曜日(連休の日)に式典とイベントを開催することになりました。午前中は記念式典に続いて元長野県副知事の中島恵理氏や伊那市長白鳥孝氏をお招きして「地域にとって信大農学部とは何なのか:SDGsの視点から考える」と題したシンポジウム、午後はホームカミングデーとして、卒業生、在校生

または地域の皆様が様々な講演、展示もしくはトークセッションを行う様々なブースを開設し、自由に行き来できるようにして、交流を深めていただくという企画を計画しております。どうぞ多くの卒業生の皆様にお越し頂きたくお願いいたします。

なお、このホームカミングデー企画の一環として、現役学生有志が卒業生の皆様に訪問させていただき、学生生活での思い出、今の人生に大きな影響を与えた事柄、さらには今後の夢などを、本年度(令和6年度)から順次インタビューしていくことを計画しております。その結果をホームページ等で発信することで好評を得た卒業生の方々を、この80周年当日お招きして、トークイベントを開催しようと計画しております。現役学生有志らは80周年にちなんで80名の卒業生に話が聞ければ!と意気込んでおりますので、訪問依頼を受けた方々はどうぞ、ご協力をいただければと存じます。

また、後日、募集いたしますがホームカミングデー企画へのブース出展についても、ご協力頂きたく存じますので、よろしくお願い申し上げます。

農学部80周年記念式典・イベント

日程 令和7年10月12日(日)

信州大学農学部
(伊那キャンパス)

場所

プログラム

- ① 80周年記念式典・シンポジウム(10:00~12:10、30番教室)
「地域にとって信大農学部とは何なのか:SDGsの視点から考える」
登壇者:中島 恵理(元長野県副知事 富士見町在住)
白鳥 孝(伊那市長)
米倉 真一(農学部長)
ファシリテーター:三木 敦朗(農学部助教)
- ② 記念祝賀会(12:30~14:00、生協食堂)
- ③ ホームカミングデー企画(14:30~16:30、講義棟)
卒業生・在校生・地域の皆様によるブースとそれによる相互交流イベント

信州大学農学部創立80周年記念募金ご寄付について

農学部同窓会長 辻井 弘忠(畜S43)

平素より、信州大学農学部の同窓会活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

信州大学農学部は、1945年(昭和20年)に長野県立農林専門学校を創立の起点とし、1949年(昭和24年)に国立信州大学となり、2003年(平成15年)から国立大学法人信州大学として現在に至っております。2015年には、食料生産科学科、森林科学科、応用生命科学科を農学生命科学科(4コース:生命機能科学コース、動物資源生命科学コース、植物資源科学コース、森林・環境共生学コース)に改組しました。アルプ스에 囲まれた四季折々のキャンパスで、「知の森で学び、知の森で考えよう」という校風のもと、豊かな自然に恵まれた環境で学問と研究を展開し、先駆的・独創的な研究を進展させてきました。これらを背景に、80年余の

歴史の中で、卓越した学問・研究業績はもちろんのこと、各分野のリーダーとして中核を担い、社会で活躍する学部卒業生と大学院修了生を輩出してまいりました。

創立80周年記念(令和7年10月12日)には、式典、講演会、ホームカミングデーなどが催されます。また、同窓会では「農学部の80年の歩み」(写真集)を発行します。

農学部同窓会は、信州大学農学部が、50年、100年後そしてその先の未来を見据え、80年の伝統の中で培ってきた知の財産や人的資源を継承し、新しい時代と社会の要請に応えるべく教育・研究の充実を図れるよう、協力を惜しまず支援したいと存じます。農学部の将来を考え、創立80周年記念式典ならびに長期的に安定した財務基盤の強化、基金の充実が不可欠です。卒業生の方々をはじめ、教職員、個人、企業、団体の皆様におかれましては、「80周年記念募金」への温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※詳しくは、同封の「信州大学創立80周年記念事業寄附金のお願い」のチラシをご覧ください。

No.40

yurinoki@shinshu-u.ac.jp

編集・発行/信州大学農学部同窓会

〒399-4511 長野県上伊那郡南箕輪村8304 TEL/FAX 0265-76-8501

発行日/令和6年8月20日 印刷/玄 冬

